

# 立法議会における政党の数量化研究

平 田 眞 一

The Measurement of Parties in Parliament

Shinichi HIRATA

## § 1 はじめに

### 1 大衆デモクラシーと政党

現代国家の中心は、国民の代表によって形成される立法議会にある。今世紀初頭から普及した普通選挙制度による大衆デモクラシーの発達には、新たな政党を生み出し、議会における政党の役割をも変化させることとなった。

現在ではもはや政党を抜きにして政治を語ることは不可能である。<sup>(1)</sup> また、現代の議会は各国の制度や習慣の違いから、議会における政党にはさまざまな型が存在している。

このことは大衆デモクラシーによるものが多いと言える。なぜなら、普通選挙制度における有権者数と、それ以前の制度での有権者数とは数において数段の違いがあるからである。さらに、第2次大戦後の人口の増加と、経済の発展は各国の社会状況を大きく変化させている。こうした変化につれて、政党も、またその役割も大きく変化してきたのである。<sup>(2)</sup>

### 2 議会と政党

立法議会における政党の数による分類、即ち政党制にはこれまでも多くのものが考えられて来たけれども、最も単純であり、また有名なものはデュベルジェ M. Duverger のものである。<sup>(3)</sup> これは政党制を3つに分類したものである。

デュベルジェの政党制

一党制

二党制

多党制

この分類はイギリスの議会や、今世紀初頭ごろのヨーロッパ議会における政党制の分類には役立つものであった。しかし、現在のように多様化の進んだ社会においては、なかなか対応できないものとなって来ている。<sup>(4)</sup>

そこで、何らかの方法によって、現在の政党制を正しく分類する手段を考える必要が生まれ来るのである。

## § 2 政党制の数量化

議会内政党の分布を数式に変えて指数で表す方法にはいくつかの試みがなされているが、比較的よく用いられるものには2種類のものがある。いずれも議会内における政党の議席占有率（ある政党の議席数÷総議席数）を基に計算されるものである。この考え方は議席率の少ない政党を排除することから来たものである。

議会における各政党の重要度は、政党の議席率に比例するが、特に過半数を超える議席率を有する政党の存在はさらに大きな比重を持つものとなる。イギリスのような二大政党制の国において、議会はたえず過半数を維持する政党を持っており、議会内政党の重要度と、それを持つ政党の数はたやすく知ることができる。しかし、多党制の議会を持つ国においてはそれが必ずしも可能とはならない。選挙のたびに変動する各政党の議席率は、重要度の高い政党を限定することを困難としている。

こうしたことから、一定の数式によって、議席占有率から、議会内の重要度を作り出し、それによって議会の「安定度」を作成する方法が考えられたのである。

本稿で用いる数式には2つのものがある。1つはレイ Douglas W. Rae によって使用されたものである。彼は政党の議席占有率を二乗することによって、議席を多く占めた政党の比重を増加し、議会における政党の割合を数字によって示そうとしたのである。彼はこれを選挙法の研究に導入したのである。彼の数式は次のとおりである。<sup>(5)</sup>

$$F_p = 1 - \left( \sum_{i=1}^n S_i^2 \right)$$

この指数はレイの破片化指数 (Fractionalization : 以下 F 指数) と呼ばれる。S<sub>i</sub> は政党の議席占有率であり、n は政党の数である。つまり、1 から n 個まである政党のそれぞれの議席占有率を二乗して合計したものを指数としている。この式によって示される指数 (F<sub>p</sub>) は 0 から 1 まで変化し、政党数が多くなるほど 1 に近づくこととなり、同勢力の政党が 2 つのみ存在する場合は 0.5 となる。

この指数は議会内における政党分布を、政党の質によって示してくれるけれども、指数の幅が非常に狭いという欠点を持っている。ある国の議会を選挙のたびの変化によって追う場合には、指数を比較することによって、確認することは容易であるけれども、他の結果との比較によらず、数値だけを見た場合に、その議会がどのような政党制になっているかを判断することは難しいのである。

そこで、別の方法を求めることになる。もう 1 つの方法はケッセルマン Mark Kesselman が用いた数式である。これは政党の数に比例して整数によって実質的な政党の数をみちびく方法である。これによると、政党の数がいくら増えようとも対応できることとなる。彼はこの数式をフランス地方政治の分析に用いたものである。彼の数式は次のとおりである。<sup>(6)</sup> (以下 I 指数と呼ぶ)。

$$I_t = \text{anti log} \left[ - \sum_{I=1}^m P_I \cdot \log_e P_I \right]$$

$m$ は議会  $t$  における政党数であり、 $P_I$ は議会  $t$  における政党  $I$  の議席占有率である。この数式によると、 $I_t$  は1から政党の数まで存在し、その間の数値の間にはかなりの変化が数字で示されることとなる。

この指数はレイのものとは比べると、同様に議席占有率が使用されているけれども、係数の幅に大きな差が出、精密な計算式を用いる分だけケッセルマンの指数の方が細かく差を示すことができる。

この2つの数式を用いて、いくつかの議会内政党制を仮りに設定して、両者を比較したものが表1である。これによると、レイの指数の変化は非常に少ないけれども、もう一つの指数は政党の議席占有率のわずかな変化でも、指数の変化はとらえやすくなっている。

(表1) F指数・I指数対称表

| 議<br>会 | F<br>指<br>数 | I<br>指<br>数 | 政 党 と 議 席 占 有 率 |      |      |      |      |      |      |      |      |      |     |     |     |     |     |     |     |     |     |
|--------|-------------|-------------|-----------------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|
|        |             |             | 1               | 2    | 3    | 4    | 5    | 6    | 7    | 8    | 9    | 10   | .20 |     |     |     |     |     |     |     |     |
| A      | .00         | 1,000       | 1.0             |      |      |      |      |      |      |      |      |      |     |     |     |     |     |     |     |     |     |
| B      | .420        | 1,842       | .70             | .30  |      |      |      |      |      |      |      |      |     |     |     |     |     |     |     |     |     |
| C      | .500        | 2,000       | .50             | .50  |      |      |      |      |      |      |      |      |     |     |     |     |     |     |     |     |     |
| D      | .585        | 2,583       | .45             | .45  | .10  |      |      |      |      |      |      |      |     |     |     |     |     |     |     |     |     |
| E      | .673        | 3,000       | .33             | .33  | .33  |      |      |      |      |      |      |      |     |     |     |     |     |     |     |     |     |
| F      | .700        | 3,596       | .40             | .30  | .20  | .10  |      |      |      |      |      |      |     |     |     |     |     |     |     |     |     |
| G      | .750        | 4,000       | .25             | .25  | .25  | .25  |      |      |      |      |      |      |     |     |     |     |     |     |     |     |     |
| H      | .800        | 5,000       | .20             | .20  | .20  | .20  | .20  |      |      |      |      |      |     |     |     |     |     |     |     |     |     |
| I      | .835        | 6,000       | .166            | .166 | .166 | .166 | .166 | .166 |      |      |      |      |     |     |     |     |     |     |     |     |     |
| J      | .875        | 8,000       | .125            | .125 | .125 | .125 | .125 | .125 | .125 | .125 |      |      |     |     |     |     |     |     |     |     |     |
| K      | .900        | 10,000      | .100            | .100 | .100 | .100 | .100 | .100 | .100 | .100 | .100 | .100 |     |     |     |     |     |     |     |     |     |
| L      | .950        | 20,000      | .05             | .05  | .05  | .05  | .05  | .05  | .05  | .05  | .05  | .05  | .05 | .05 | .05 | .05 | .05 | .05 | .05 | .05 | .05 |

L. C. Dodd, "Coalition in Parliamentary Government", 1976, p. 76. より作成

### § 3 理論の実用化

#### 1 理論の応用

この2つの指数における応用例として、ウィルジェン J. K. Wildgen はケッセルマンの方法を「超破片化」(Hyper-Fractionalization) と名づけ、その理論を展開している。<sup>(7)</sup> 彼はF指数とI指数の両方を取り上げ、それぞれの長所を示している。この研究ではF指数とI指数のそれぞれの相関と、いくつかの例による実用度を調べている。彼の結論をまとめると次のようになる。

- (1) I指数はF指数と同様に、比較的計算が容易である。
- (2) I指数はF指数とは異なり、数値の上限がなく、選挙における政党の数に比例したものとなる。

(3) I 指数は投票分析においていっそう細かい差を示すことができる。

(4) F 指数は、ある 1 つの政治システムにおける破片化を示すことには適している。

I 指数は異なった制度の結果を比較することに適している。

つまり両指数ともに計算は楽であるけれども、それぞれの数値には異なった特徴が出ているのである。付け加えると、計算は簡単というけれども、計算機の助けをかりなければならず、ウィルジェンはこの研究で 2 つの FORTRAN プログラムを使用している。現在ではコンピューターを使うほどではないが、関数電卓は必要である<sup>(8)</sup>。

## 2 実用化例

立法議会における政党の数量化はこれまで述べてきたように、「数量化」は可能となる。しかし、これを実際の研究に使用することとなるといくつかの問題を持っている。それは、これまでの研究が、人為的なデータを中心としていたからである。しかし、1970年代より社会科学の中にもコンピューターを使用した統計処理が一般化して来るにつれて、単純にデータを用いた研究から応用されたものへと変化してきた。

この例として挙げられるものが、ドッド L. C. Dodd の研究である<sup>(9)</sup>。これは比較政治学における政党制の研究をこれまでのものと視点をかえ、「多党制のなかにも政治的安定は存在する」という仮説を立証するものである。このなかで、政党制分類に数量化の手段を用いている。

彼も前記のウィルジェンと同様の理由から I 指数を用いているが、必ずしもそれが正しいとは断言せず F 指数も併用している<sup>(10)</sup>。

彼の研究では、単に議会における政党の「破片化」を明らかにするだけにとどまらず、議会の安定度を含めて広い範囲におよぶものである。その手段として多数の数式を示しているが、それらはここでは省略する。

もう 1 つの例としてはサルトーリ G. Sartori の研究が上げられる<sup>(11)</sup>。彼は政党制の研究において、F 指数を修正して用いている。サルトーリの研究は政党制の分裂度よりも政党制の分類として有名であり、数式による研究はメインではない。しかし、彼もまた現代における新たな政党制を確立するためには、議会における「破片化」を示す指数を用いることで、より明確にしている。

サルトーリの研究は、本稿の初めにとり上げたデュベルジェの政党制を改善することであった。彼の政党制分類の特徴は、現代の多様化の中で、複雑化した多党制を分類した所にある。このために、従来の方法から、数量化の方法へと新たな手段によって分類を裏付けることが必要となったのである。

### サルトーリの政党制

|          |                          |
|----------|--------------------------|
| 一党制      | One party system         |
| ヘゲモニー政党制 | Hegemonic party system   |
| 一党優位政党制  | Predominant party system |
| 二党制      | Two party system         |

|        |                    |
|--------|--------------------|
| 限定的多党制 | Limited pluralism  |
| 極端な多党制 | Extreme pluralism  |
| 原子化多党制 | Atomized pluralism |

政党制の議論に欠くことのできないものは議会の安定ということである。デュベルジェの分類においても、これは議論の対象となっているが、彼は、一党制や二党制における議会の安定度に対して、多党制では安定した政権の割合が少ないということで、あまり重きをおいてはいない。

サルトリーの分類は、多党制のなかにも安定した政権を作り出すものもあり、それを他の多党制と区別したことにその特徴がある。多党制議会であっても、政党が2つの極に集中することによって二極化した政党制を作り出せば、二党制に似た機能を持つことができ、比較的安定した政権を可能とすると主張している。したがって、政党が3つ以上存在する多党制であっても、さらに分類が可能となる。

この分類では、政権の安定を可能とするか、困難とするかの境目を求めることが重要なポイントとなる。さらに、政党制を政党の数だけに頼るのではなく、政党の議席率をも計算に入れなければならない。

多党制を3つに分類するための条件として、数量化の手段を用いている。彼の研究では多党制という範囲のなかで比較の対象とするために、レイと同じくF指数を使用している。しかし、彼も他の場合と同様に無条件でこの指数を用いているわけではない。国際比較の場合、ある1回の選挙だけで比較することは意味がなく、ある程度の時間的広がりをもたらす必要がある。そこで、サルトリーは戦後約30年間の数値を平均値と中央値によって比較している。この作業をした上でさえ、さらに、修正しなければならないことが、数量化された数値にどうやって現実性を持たせるかという困難な問題を示している。

## § 4 問題点とこれからの展開

### 1 政党制研究のためのルール

これまで述べてきたことだが、政党制という分類方法は、議会内に存在するすべての政党を対象としているわけではない。議会における政党は、その占有議席数によって重要度が変化する。例えば、イギリス議会には3つ以上の政党が存在するけれども、イギリスの政党制は二党制である。このように政党制を決定するファクターには実際に政権を手に出る可能性をも加えなければならない。さらに、多党制のなかではもっと複雑となる。多党制の場合、政党が政権を手にする方法が2つあるから、つまり、単独政権と連合政権の両方の可能性を考えなければならない。後者の場合、政権に参加する可能性を持つ政党の数はさらに増加する。こうしたことが数量化を困難にしているのである。

さらにむずかしい問題は、政権に関係のない政党のなかには、その政党の存在そのものによって、他の政党間の競争に影響を及ぼす政党が存在するという点である。例えば、わが国の

新自由クラブや公明党，こうした政党はたとえ政権に関係がないとしても無視することはできない。このようなファクターは，数字で示すことはほとんど不可能である。

このように，数量化の前にさまざまな要素を処理しなければ，完全な数量化というものは作ることができない。議会というものは選挙のたびごとに変わる有機体のようなものであり，制度の違う複数の国家のそれを比べることは容易なものではない。

2 有効政党数

政党の議席占有率による議会の「破片化」指数は，ある1つの国の議会の変化をとらえるためには非常に良く役に立つものである。しかし，他の国の議会との比較となると簡単にいくものではない。数量化の前にある程度の知識によって政党を識別しなければならないからである。この作業をこなすことがこの研究の成功を決めることとなる。

ケッセルマンのI指数は数値も大きく，他国の議会との比較に有効のように見えるけれども，この数式はわずかの変化にも対応するので，統一ルールなくしてデーターを入れたものは無意味となる。つまりI指数もF指数も，同じ条件下，即ち同一国家における議会を研究対象とする時が最も有効である。それ以外の場合では何らかの方法によって有効政党をしぼる必要がある。

(表2) フランス国民議会議席配分表

| 1956年1月 |       |          | 1981年6月 |     |          |
|---------|-------|----------|---------|-----|----------|
| 政 党     | 議席数   | 議席占有率(%) | 政 党     | 議席数 | 議席占有率(%) |
| 極 右     | 3     | 0.6      | R P R   | 83  | 17.0     |
| ブジャード派  | 52    | 9.6      | U D F   | 64  | 13.0     |
| R P F   | 16    | 2.9      | P S     | 285 | 58.0     |
| C N I   | 94    | 17.3     | P C F   | 44  | 9.0      |
| M R P   | 71    | 13.0     | そ の 他   | 15  | 3.0      |
| R S     | 71    | 13.0     |         |     |          |
| S F I O | 88    | 16.2     |         |     |          |
| その他左翼   | 4     | 0.7      |         |     |          |
| P S F   | 145   | 26.7     |         |     |          |
| 計       | 544   | 100.0    | 計       | 491 | 100.0    |
| F 指数    | 0.828 |          |         |     | 0.6088   |
| I 指数    | 6.104 |          |         |     | 3.0015   |

(表3) 指数相関表

| 政党 | 議席占有率(x) | x <sup>2</sup> | Σ      | F | x · log <sub>e</sub> x | -Σ     | I |       |       |
|----|----------|----------------|--------|---|------------------------|--------|---|-------|-------|
| A  | 0.45     | 0.2025         | 0.2025 |   | -0.359                 | 0.359  |   |       |       |
| B  | 0.25     | 0.062          | 0.2645 |   | -0.346                 | 0.758  |   |       |       |
| C  | 0.15     | 0.0225         | 0.287  |   | 0.712                  | -0.284 |   | 0.990 | 2.692 |
| D  | 0.05     | 0.0025         | 0.2895 |   | 0.710                  | -0.149 |   | 1.14  | 3.127 |
| E  | 0.04     | 0.0016         | 0.2911 |   | 0.708                  | -0.128 |   | 1.268 | 3.557 |
| F  | 0.03     | 0.0009         | 0.292  |   | -0.105                 | 1.37   |   |       |       |
| G  | 0.03     | 0.0009         | 0.2929 |   | 0.706                  | -0.105 |   | 1.47  | 4.890 |

### 3 指数の特徴

最後にこれまで説明してきた2つの指数がそれぞれどのような特徴を持つかを述べてみたい。

表2はフランスにおける2つの選挙結果を比較したものである。このように結果が明らかな場合は数量化するまでもなく変化が手に取って確認できる。しかし、有効政党数ということになると、数量化した数値の方が説得力を持つことは明らかである。

表3は仮設議会であって、数量化の結果をわかりやすくするために作成したものである。この表において規模の小さい政党を計算の上から排除することによって、数値は小さくなるが、実際にはF指数とI指数のどちらに変化が大きいかを知ることができる。

この表が示しているように、F指数は弱小政党の影響をほとんど受けないけれどもI指数はかなり影響を受けることとなる。つまりF指数は「破片化」指数であり、規模の大きい政党の影響を受けやすいのである。

この両者の特徴をふまえた上でなければ、実際に使用することはむずかしい。また、実用においては何らかの修正を加えることが必要となる。

### 謝 辞

本稿を終わるに臨み、私のいたらぬ研究によく御助言下さいました、早稲田大学の内田 満、岡沢憲芙両教授に深謝の意を表します。

また、今回の論文に関して御尽力下さいました、鶴藤教授をはじめ本学編集委員の方々に深く御礼申し上げます。

### 註 釈

- (1) E. E. Schattschneider, *Party Government*, Holt, New York, 1942, p. 1.
- (2) 内田 満「現代デモクラシーと選挙」(『選挙』至文堂, 東京, 1975.) pp. 5-14.
- (3) M. Duverger, *Parti Politique*, Colin, Paris, 1951.
- (4) S. P. Huntington, "Postindustrial Politics", (*Comparative Politics* Vol. 6 No. 2, January 1974) pp. 163-192.
- (5) Douglas W. Rae, "A Note on the fractionalization of some European party systems", (*Comparative Political Studies*, October 1968) pp. 413-418.
- (6) M. Kesselman, "French local politics: a statistical examination of grass roots consensus", (*American Political Science Review* 60, December 1966) pp. 963-973.
- (7) J. K. Wildgen, "The Measurement of Hyperfractionalization", (*Comparative Political Studies*, July 1971) pp. 233-243.
- (8) 筆者はSHARP PC-1200を使用
- (9) L. C. Dodd, *Coalitions in Parliamentary Government*, Princeton Univ. Press, New Jarsy, 1976. (岡沢憲芙訳『連合政権考証』政治広報センター)
- (10) *Ibid* p. 78.
- (11) G. Sartori, *Party and party systems*, Cambridge Univ. Press, Cambridge, 1976. (岡沢憲芙他訳『現代政党学』I, II, 早稲田大学出版部)

